

目次

口絵
 発刊のことば
 村誌合冊版発刊にあたって

魚島村長 佐伯真登
 魚島村教育長 中村一義

第一編 自然編

第一章 風 土

第一節 位置・面積・人口
 位置・面積 人口の概況 人口の変遷

第二節 地 形

第三節 地 質

概要 各島の地質と岩石 珍しい岩石
 まとめ

第四節 気 候

特色 魚島と海陸風 気温 降水量 風
 霧の発生 天候その他 海の天気

第五節 潮流と海況

海岸地形 海底地形 魚島周辺の潮流

第二章 生 物

第一節 概 況

第二節 魚島村の植生

魚島 高井神島 海浜植物
 関道神社の松並木 現在の関道神社の松並木

海藻 魚島村と漁業(魚付林)

第三節 動 物

概観 カワウソ 海の動物(一) 貝類

海の動物(二) エビ・カニ類・クルマエビ類

海の動物(三) 魚類 海の動物(四) 軟体動物

海産生物の変化と課題 昆虫類

第四節 島の四季・自然

春 魚島の鯛 潮干狩り モバ 除虫菊

夏 陸に上がったタコ レゴン 人食いフカ

魚三題 ヒチビシヤ 海藻採り 夕涼み

ネコとネズミ

秋

ハメ 消えた隣人 切り干し 茸狩り

冬

21 21

カキ(牡蠣)打ち デビラ干し ギザミ掘り
伝説木

第二編 歴史編

一 魚島のあけぼの

第一章 旧石器時代
第一節 当時の瀬戸内海
第二節 ナイフ形石器
旧石器時代の遺跡 ナイフ形石器 細石器
有舌尖頭器

第二章 縄文時代
第一節 縄文草創期
第一節 縄文早期
第三節 縄文前期
第四節 縄文中期
第五節 縄文後期
第六節 縄文晩期
第三章 弥生時代
第一節 弥生前期
前期の土器 鉄器など 神ヶ市遺跡

第二章 警固衆沖島氏の活躍
第一節 警固衆の発生
蒙古合戦と河野氏の復活 警固衆の発生
篠塚伊賀守の奮戦 それからの伊賀守
篠塚伊賀守の名残り
第二節 警固衆沖島氏
沖島氏の台頭 村上義弘と今岡通任
沖島氏の面影 沖島城 宝篋印塔(篠塚さん)
第三節 村上信清の伝承
村上三家成立の伝承 村上信清の伝承

第三章 戦国の乱世と嶋氏の活躍
第一節 嶋氏の台頭
沖島氏から嶋氏へ 村上三家の興隆
嶋氏の系譜 大内氏との関係
好味城主 嶋左衛門尉
第二節 戦国の乱世と嶋氏
岐島合戦のころ 元太城合戦 小見山の攻防
水軍の城

三 近世の政治と経済
第一章 水軍の滅亡と伊予八藩の成立
第一節 三家の拮抗

第二節 弥生中期
中期の土器 金属器の使用 石器
海上交通遺跡 高地性集落
神ヶ市高地性集落遺跡 篠塚港遺跡
宮ノ越遺跡 巨石信仰 磐境(いわさか)
石神 磐座 賽ノ神
第三節 弥生後期

第四章 古墳時代
第一節 古墳
古墳 前期古墳 中期古墳 後期古墳
第二節 祭祀遺跡
(1) 大木遺跡
(2) 神ヶ市遺跡
(3) 大木遺跡の古代製塩

二 水軍の世紀
第一章 古代の瀬戸内海
第一節 瀬戸内海と古代水軍
伊予の国造 越智氏と紀氏
古代の瀬戸内海交通 白村江の戦い 国郡制度
第二節 海上勢力の台頭
宮崎の海賊 純友の乱 源平合戦のころ

第二節 水軍の滅亡
天山の陣(四国平定戦) 村上一族の四散
城割りと太閤検地 福島氏の伊予入国
征韓の役のころ 古三津刈屋口の戦い
水軍嶋氏の終焉
第三節 今治藩政下の魚島
久松(松平)藩政以前 久松定房の入城
今治藩の農村支配
第四節 村方三役の支配
近世初頭の魚島 村役人の支配 魚島村の庄屋
第五節 沖島村から魚島村へ
魚島村の村名 近世村落の形成 地主さん
苗字と屋号
第六節 寛永の検地
寛永一三・一四年の検地 沖島村の記載
魚島村検地帳の内容
第七節 今治・弓削騒動と魚島
今治・弓削騒動 弓削騒動
第八節 元禄以降の検地と地坪
元禄以降の検地と地坪 魚島村の検地
第九節 新田畑の開発
新田畑の開発 魚島の開発

第九節 今治藩の新田開発 魚島の開発

元禄以降の開発

第一〇節 石高と人口と年貢……………135

石高の推移 人口の伸び 本年貢

魚島村の年貢 小物成

第一一節 村の共同生活……………139

魚島の集落 儉約令や犯罪の取締り

宝暦の取締り 五人組制度

第二二節 災害と飢饉……………140

災害とくらし 三大飢饉と魚島

天明・天保の飢饉 旱魃と雨乞 疫病の流行

第三三節 衣食住とくらし……………144

生活の統制 衣と生活 食生活 住居

第一四節 海運と魚島……………147

沖乗り航路と魚島 航行の諸相

参勤交代と魚島 公用船村船 渡海船

第一五節 水軍の伝統と船法定書……………150

水軍書の流行 廻船式目 魚島伝来の船法の巻

第一六節 船と海運……………154

海運の統制 海難 魚島港 船舶の建造

亀居八幡の帆船模型 農船

第一七節 魚島と漁業……………161

1 漁村の成立と歴史……………161

漁業の概観 漁村の成立 漂海漁民の定着

藩の漁村支配 燧灘鯛漁の歩み

2 今治藩の漁業政策……………164

藩主と魚 藩の漁業取締り 漁業政策の転換

沖売りの禁止

3 漁民の負担と鯛・塩辛の献上……………167

漁民の負担 鯛・塩辛の献上 鯛から鱒漁へ

煎海鼠の上納

4 漁民と漁船……………170

藩の漁業保護 漁船の管理 漁民の保護

篠塚漁港

5 網主と歩買連中……………173

亀居八幡の石造物 網主らの頼母子躰

漁場の支配と保護 魚島近海の漁場

6 魚島の鯛漁……………178

鯛漁の種類 鯛網漁 魚島の鯛網統数

魚島の鯛網代 吉田磯 吉田磯の漁景

7 漁場紛争……………184

紛争の発生と解決 他領との争い

第二章 近世文化の諸相……………186

第一節 村人の教養と文化……………186

教養と娯楽 石造美術

第二節 寺子屋と若者宿……………188

寺子屋と若者宿 心学と丹下珉(光亮)の廻村 寺子屋教育

第三節 戸長時代の魚島……………216

郡区町村編成法 戸長期の魚島

第四節 魚島村政の発足……………217

町村制の施行 魚島村の分村独立

第五節 魚島村政の開始……………220

村の産業 鯛網漁業 漁場紛争 朝鮮出漁

朝鮮出漁(現地民との拮抗) 江ノ島の開拓

第六節 明治期の教育……………231

明治期の教育 旭小学校から魚島簡易小学校へ

学制と村の教育 旭小学校から魚島簡易小学校へ

魚島尋常小学校 魚島尋常高等小学校

第七節 日清・日露戦役のころ……………234

日清・日露戦争と郷土 漁港整備

第四節 魚島八幡神社の信仰……………197

神社の創建 亀居八幡再興記録 関道神社

亀居八幡の奉納物

第五節 神仏の混淆(習合)……………201

神仏混淆の形 多様の諸佛諸神像

道福寺の版木

第六節 漁民の信仰……………204

海と漁の信仰 船玉信仰 大宝(網盤)信仰

第二章 大正時代……………236

第一節 鯛の飼付漁業……………236

海上交通の発達 発動機船 定期(郵便)船

第二節 海上交通の発達……………236

電気・通信の発達 高井神灯台 島に電気を

第三節 高井神灯台 島に電気を……………238

第三章 昭和前期……………241

第一節 漁業の発展……………241

徴兵と地租改正……………212

四民平等と戸籍法 徴兵制の開始

地租改正の意義 地租改正事業の進展

魚島の地租改正資料……………241

四 社会の近代化と郷土……………208

第一章 明治時代……………208

第一節 近代社会の夜明け……………208

維新前夜 廃藩置県 石鉄県政 大区小区制

愛媛県政の発足

第二節 徴兵と地租改正……………212

四民平等と戸籍法 徴兵制の開始

地租改正の意義 地租改正事業の進展

魚島の地租改正資料……………241

鋼網と朝鮮出漁	イワシ網漁業	打瀬網漁業
一本釣漁業	イカ巢漁業	タコ延縄
桝建網漁	石操網漁業	
第二節 戦前の青年団	石操網漁業	243
第三節 戦前の教育	魚島実業補習学校	245
大正時代の教育	魚島実業補習学校	
魚島水産補習学校	魚島青年学校	
魚島国民学校		
第四節 村政の一面		246
第五節 暮らしの民俗		247
第六節 産業のようす		248
第七節 戦争と郷土(兵事)		249
徴兵制度	本村応召者の記録	
大東亜戦争(太平洋戦争)		
第八節 戦中・戦後のくらし(社会)		251
日華事変のはじまり	太平洋戦争と郷土	
麦の供出	物の供出	終戦後の混乱
戦後のくらし	江ノ島の開墾	衣料品の配給
農地改革	流星楽団の活動	
供出優良で軍政部より表彰		
戦時被災の楓栄丸浮く		
第四章 現代(昭和後期～平成)		256
第一節 村政の発展		256

離島振興法による生活生産改善	新庁舎の建築
離島センターの建設	全員協議会
上島四町村合併に向けて	村制百周年を迎えて
流通機構の変化	渡海船の復活
行商人など	流通機構の変化
村営定期旅客航路の増便と航路延長	
漁業に生きる	
第三節 戦後の漁業	「獲る漁業」から「つくる漁業」へ
離島振興法と漁港整備	戦後の漁場紛争
これからの魚島漁業	
第四節 農業の変遷	
終戦後の農業	柑橘栽培の夢と挫折
第五節 教育の発展	
魚島小学校魚島中学校	学校給食
交流学習	壮年会
第六節 住みよい郷土づくり(社会教育)	
美しい郷土づくりをめざして	過疎を防げ
第七節 交通の発達	
海上交通の発達	平成十六年 渡海船舶物語
陸上交通の発達	
第八節 電気・通信の発達	
電気の導入	通信の発達
IT化の推進	魚島テレビ 5ch
第九節 水資源の確保を	

水の確保	下水道の整備
第一〇節 村民の健康と安全を守る働き	
消防団	魚島村国保診療所
新型炉の実験開始	保育園
国保診療所の充実	公営住宅
老人福祉	
第一一節 これからの魚島村	
観光	瀬戸の楽園づくりを

第二章 ふるさとの伝説と民話	
第一節 伝説	
一 魚島の鯛と吉田磯	
二 隠れ殿様	
三 篠塚さんの伝承	
四 横井家九星紋(家紋)の由来	
五 大林家の大玉様	
六 漁場の発見	
七 地主さんとニレの古木	
八 地主(やけ神様)の話	
九 こうしんさんの木	
一〇 道福寺境内の大イチョウ	
一一 持上げ地蔵の話	
一二 たつえ(達恵)の地蔵さん	
一三 宮の越	
第二節 民話	
一 いっぱい食わされた六助じいさん	
二 エンコの約束	

第三編 文化・民俗編

第一章 高井神島誌	
第一節 高井神島の沿革	
一 概観	
二 生業	
三 旧漁業	
四 信仰など	
五 民具	
第二節 高井神小・中学校	
一 高井神小中学校沿革	
二 児童生徒数の推移	
第三節 高井神島の神社	
一 関道神社	
二 石鏡神社	
三 高井神島の庵寺	

第二章 伝説と民話	
第一節 伝説	
一 魚島の鯛と吉田磯	
二 隠れ殿様	
三 篠塚さんの伝承	
四 横井家九星紋(家紋)の由来	
五 大林家の大玉様	
六 漁場の発見	
七 地主さんとニレの古木	
八 地主(やけ神様)の話	
九 こうしんさんの木	
一〇 道福寺境内の大イチョウ	
一一 持上げ地蔵の話	
一二 たつえ(達恵)の地蔵さん	
一三 宮の越	
第二節 民話	
一 いっぱい食わされた六助じいさん	
二 エンコの約束	

三 エンコ棒……………312
 四 万吉じいと豆だぬき……………312
 五 豆狸(マメダ)の話(その一)……………313
 六 豆狸(マメダ)の話(その二)……………314

第三節 怪談……………314

一 闇の中の呼び声……………314
 二 因幡の魔物……………315
 三 満願寺跡の怪……………316
 四 石仏のたたり……………316
 五 七人みさき……………317
 六 地主(地神)さん……………317

第四節 島の妖怪変化……………317

一 海坊主(うみぼうず)……………317
 二 船幽霊……………318
 三 マメダのわるさ……………318
 四 小坊主……………318

第三章 ふるさとの祭りと行事……………319

第一節 春の行事……………319
 雛節句 だいたい神楽とほん神楽 花祭り
 お大師さん ヨイ節句 菖蒲節句

第二節 夏の行事……………320

山の神様 ハガタメ 祇園さん 敬島さん
 石鐘詣り 金比羅さん 住吉さん

年齢集団の種類 若中から青年団へ
 青年団の機能・活動 戦前の青年団
 終戦直後の青年団 青年団の現状 壮年会
 子ども組

二 相互扶助……………345

コウロク(口祿) 頼母子 その他の共同作業

三 家族……………346

親分子分関係

四 屋号と屋印、苗字……………347

屋号 屋印

第二節 人生儀礼(人の一生)……………348

一 産 育……………348
 出産 名づけ 忌み明け モモカマイリ
 捨て子の風習 童戯 夜泣きのまじない

二 婚 姻……………349
 よばい 婚姻 結婚式 披露宴
 よいどえ節 お歳暮 補足資料

三 葬 送……………350
 葬式 葬列 参列者 埋葬 テンノカワヤ
 ヤナギ オガンホドキ ヒトモチヤ

第三節 民間信仰……………352

一 仏教的民俗信仰……………353
 浜の大師 因幡のお大師さん お大師さん
 島四国 たつえの地藏

ムラカミサン 春日さんと荒神さん 七夕
 新盆 盆の墓参り テンテコ踊りと盆踊り
 テンテコメシ ヨ念仏(八月)
 ウラ盆(八月)

第三節 秋の行事……………326

八朔 秋祭り 地芝居 関道神社の秋祭り
 栗節句 亥の子 お大師さん

第四節 冬の行事……………331

ミンマ(巳午) 煤掃き オシメ 門松
 餅つき 歳徳神 大晦日 若水迎え
 初詣り 正月祝い 年頭回り 乗り初め
 三が日 フクワカシ 仕事始め 七草節句
 厄詣り 十日恵比須 地祝い・帳祝い
 とんど焼き 一五日の行事 ヒトヒ正月
 節分 初大師 春日さんと荒神さん
 やいと(灸) すえ 初午

第五節 年中行事補足資料(正月行事)……………339

花松(ハナマツ) ナカダナ(なか棚)
 年徳神さんと若水汲み 乗り初め
 サンダイビ(お旅所)のこと

第四章 民俗……………341

第一節 社会組織……………341

一 年齢集団……………341

二 神道的民俗信仰……………354

屋敷神 屋内神 水神 明神(稲荷明神)
 船霊様

三 講集団……………357
 石鐘講 その他の講 昔存在した講

四 その他の民俗信仰・聖地……………358
 雨乞い サイの神 ムラカミサン

五 信仰補足資料……………359
 花みどり 千本幟 お百度参り 地主さん
 板屋の恵比須様 荒神講 夢の吉凶
 祇園様の赤旗 コリトラス 犬神
 ゲドがたたる カゲキヨさん

第四節 衣食住……………361

一 住のくらし……………361
 集落

二 家 屋……………362
 間取り 床 屋根・天井 塀・壁・柱
 冷暖房 照明 台所 便所 風呂 物置
 防災

三 衣のくらし……………369
 普段着 仕事着 晴れ着 夜着 雨具
 装身具 履物 新調

四 ハレの日の食事……………371

一 食べる生活……………371

餅	オトソ	元日の食事	雑煮
おせち料理	男が炊事する日	鏡餅	
小豆粥	麦餅	べつばら	ちまき
とりつけだんご	祭りの食事	栗ごはん	
亥の子餅	巳午(みんま)	運氣そば	
慶弔の日の食事			
二ヶの日の食事			378
主食	おかず	保存食	かて飯
間食	食制		調味料
三 飲料水			
村井戸	井戸がえ	篠塚の村井戸	
大木の村井戸			
四 補足資料			
第五節 神社・仏閣			384
一 寺院			385
二 神社			385
三 神仏混仰			387
四 資料(社寺関係)			391
第六節 海の民俗			392
星の呼称	風の呼称	潮の呼称	
第七節 失われいく郷土の生活文化(民俗)			395
一 住居			395
二 食生活			396
三 衣生活			397

四 産業			
五 伝統文化・芸能等			
第八節 平成八年魚島村民俗資料調査			397
一行商人など			398
二 渡海船			398
三 定期船			399
四 学校関係			399
五 寺社関係			400
六 民俗関係			400
七 漁業関係			400
八 戦争中のでき事			401
九 その他			401
第五章 文化			
第一節 人物伝			402
実業家	有永長治郎	有永長治郎伝裏話(口碑)	
芸術家	大林正輝	忠臣 篠塚伊賀守	
第二節 史跡・文化財			405
一 文化財			405
二 村の文化財			406
1 国指定重要文化財(石造美術)			406
2 その他の有形文化財			406
三 魚島村の方言			418
四 気象・潮汐・ことわざ他			468

五 民謡			473
第三節 参考資料			475
一 魚島村の寺社巡礼記			475
二 郷土の文化財			476

一 伊賀山(愛媛面影)			597
二 篠塚伊賀守墓(愛媛面影)			597
三 篠塚伊賀守墓(伊豫温故録)			597
四 篠塚伊賀守重広の沖島渡来			598
五 伊賀守の末裔			601
六 篠塚伊賀守と魚島考			602
第二節 嶋家遺事全			604
嶋家遺事全	嶋家遺事	家伝雑事臆説	
第三節 嶋家関係文書等			622
一 田坂道閑覚書			622
二 能島家頼分限帳			622
三 本太城合戦			625
第四節 関ヶ原合戦と嶋又兵衛			626

第四編 昭和・平成の記録			479
第五編 資料編			587
第一章 自然関係			589
魚島・高井神島植物調査報告			
越智郡魚島・高井神島植物目録			

第四章 近世・近代関係			629
第一節 寛永二三 今治御領分越智郡之内沖嶋村検地野帳			629
第二節 明治五年 神社明細帳・寺院明細帳			645
魚嶋八幡大神	矢立神社	巖島神社	
事代主神社	荒神社	春日神社	事代主神社
金刀比羅神社			
第三節 明治一三年 越智郡魚島村地誌			647
第四節 明治二三年 人民諸願届届上申			651

第二章 古墳時代の遺跡			592
第一節 瀬戸内海交通と大木遺跡			592
第二節 松の浦(大木)遺跡考			593
第三節 瀬戸内海の海上信仰調査報告(東部地域)			593
遺跡の分布	備讃瀬戸の祭祀遺跡		
大木・神ヶ市遺跡			
第四節 瀬戸内海支配と瀬戸内海航路の成立			595

第三章 中世関係			597
第一節 篠塚伊賀守に関する参考資料			597

第五章 漁業関係資料……………659

第一節 魚島・高井神嶋鯛網番附……………659

鯛網網代番付 鯛網網代番付 鯛網網代番付帳

鯛網網代番付 宇右衛門網 鯛網網所帳

鯛網網所帳 鯛地漕定約書

第二節 朝鮮出漁の父有永長治郎……………669

朝鮮開港以後に於ける日本漁民の朝鮮近海漁業の展開(抄)

第三節 吉田磯の記念石……………678

第四節 巨濟島と魚島漁民……………679

第五節 内海漁業の経営と海外漁業の発展……………680

一 位置と村是……………680

二 内海漁業の実態とその漁権……………681

三 海外漁業の発展……………684

四 実力の増進に伴う公共心の一斑……………689

第六節 韓国側から見た朝鮮出漁……………691

植民時代移住漁村「小魚島村」と巨濟島旧助羅(抄)

第六章 地誌・民俗関係……………699

第一節 越智郡魚島村郷土誌……………699

自然誌 人文誌

第二節 昭和一七 魚島村民俗資料……………723

一 魚島村漁業発展史……………723

二 本村に於ける水産業概観資料……………726

三 言語の誤びゅう……………726

四 テンテコ……………728

第六編 年 表……………731

魚島村の歩み……………733

おわりに 編集委員 村上和馬